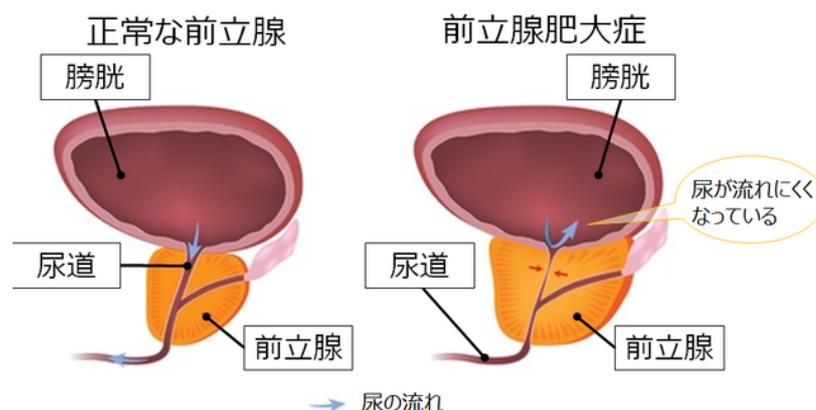


健康長寿ネットの「前立腺肥大症」のページから引用しました。前立腺肥大によって尿道が狭くなり排尿が困難になる病気です。前立腺癌でも同様に尿道が狭くなることがあります。

この病気の治療については泌尿器科が専門で、当科も緊密に連携しています。



心臓血管外科★健康講座

前立腺は男性のみにある臓器で膀胱のすぐ下にあります。前立腺疾患になると尿道が狭くなり、尿が出にくくなります。尿道カテーテルを挿入するのも難しくなります。



心臓手術

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第21号は「前立腺疾患」です。

心臓血管外科なのにどうして前立腺疾患？と思われるかもしれませんが、**心臓大血管手術では、尿量の測定が極めて重要です。**尿量は腎機能を示すと同時に、**心機能も示すもの**なのです。尿量が少ないときは、さまざまな理由があり評価が必要ですが、**尿量が十分に出ている時は、心機能も良好**です。

心臓血管外科の術中、術後早期には**1時間あたりの尿量が重要で、精密に測定**します。その



尿道カテーテル

先端の風船を膀胱の中で膨らませます。尿道で膨らませた場合はかなり痛みがあります。



蓄尿バッグ

目盛りがついていて、尿量を正確に測ることができます。

ために尿道カテーテルの留置が必要です。膀胱のすぐ下にあつて、尿道を囲むように存在する前立腺の疾患はこのカテーテルの留置の際に重要です。

前立腺疾患の患者さん（治療後の方も含めて）では、尿道カテーテルを挿入することが難しい場合が多いです。膀胱までうまく入らずに尿道でバルーンを膨らましてしまい、尿道損傷することもあります。

このため、当科では、前立腺疾患の患者さんでは手術の前日に十分にゼリーで麻酔をした上で尿道カテーテルを留置します。もし難しい場合は、前日の段階で泌尿器科に相談するようにしています。手術当日の慌ただしい中で無理な挿入をすると事故が起きやすいことを想定しての対応です。

70歳以上の男性では、実におよそ70%の方が前立腺が肥大していると言われていています。その中で治療が必要な方は1/4くらいとのことです。当科の術前評価や尿道カテーテルの留置の際に前立腺疾患が明らかになった方は、泌尿器科での精査をお勧めしています。

逆に、前立腺疾患の精査中に、腹部大動脈瘤などが発見され当科に紹介となる患者さんも多いです。当科と泌尿器科の連携は重要です。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第21号